

NEC

NECソリューションイノベータ

InfoCage FileShell バックアップツールコマンド 利用ガイド



InfoCage FileShell バックアップツールコマンド

Version 6.3

利用ガイド

(0630B01)

はじめに

このたびは、NEC ソリューションイノベータ株式会社の InfoCage FileShell をお買い求めいただき誠にありがとうございます。

InfoCage FileShell は、電子ファイル自身にセキュリティ情報を持たせた暗号化をおこなうことで、利用者の操作性を損なうことなく重要な情報を永続的に保護する機密情報保護ソフトウェアです。ご使用になる前に本書をよくお読みになり、製品の取り扱いを十分にご理解ください。

■ 商標について

- ・ Microsoft および Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ InfoCage は NEC ソリューションイノベータ株式会社の登録商標です。
- ・ その他、本書に記載されている会社名、商品名は各社の登録商標または商標です。
- ・ 本書の一部、または全部を流用・複写することはできません。
- ・ 本書中のサンプル画面で使用している名称は、すべて架空のものです。実在する品名、団体名、個人名とは一切関係ありません。

■ 免責事項

本書および本システムは、ライセンス契約に基づいて使用することができます。

ライセンス契約で明示的に定められていないかぎり、NEC ソリューションイノベータ株式会社は製品、およびその関連文書について、明示的にも暗黙的にも、商品性に関する保証、特定目的への適合性に関する保証、取り扱い、使用、または取引行為に伴う保証について一切の責任を負いません。




本書について

本書は本製品を正しく運用し、効果的に活用するための手引きです。運用を開始する前や運用中に、機能・操作を確認するためにご利用ください。

本書は、バックアップツールコマンドを使ったアプリケーションの開発者、および、バックアップツールコマンドを使ったシステムの運用者を対象としています。

本書中の記号について

本書中では、説明、操作手順の他に以下の記号を使用しています。これらの記号の意味を正しくご理解になり、本書をお読みください。

記 号	説 明
 <i>Notice</i>	システムの取り扱いで守らなければならない事柄や特に注意すべき点、確認すべき点を説明します。
 参照	関連する内容が記載されているページを紹介しています。
 <i>Operation</i>	操作手順を示します。

参考資料について

本書中では、参考資料として以下のガイドを参照するように説明しています。

項 目	ガ イ ド 名	番 号
FileShell 管理者ガイド	InfoCage FileShell 管理者ガイド	0630Knn
FileShell インストールガイド	InfoCage FileShell インストールガイド	0630Snn

* 末尾の「nn」には、「01」、「02」などの数字(版数)が入ります。
版数は、プログラムやマニュアルに変更があった場合に更新されます。

目次

第 1 章	バックアップツールコマンドについて	1
1.1	機能	1
1.2	動作環境について	1
第 2 章	注意事項	2
2.1	運用上の注意事項	2
第 3 章	コマンドリファレンス	3
3.1	バックアップツールの格納場所について	3
3.2	バックアップ	3
3.3	復元	5
3.4	削除	6
3.5	変換	7
第 4 章	ログ	8
4.1	バックアップツールの操作ログ	8
4.2	バックアップツールの操作ログ内容	8
4.3	バックアップツールの操作ログ一覧	9
第 5 章	諸元	10
5.1	FileShell 操作ログ(Icflog_OperationLog.csv)	10
5.2	FileShell イベントログ(Icflog_EventLog.csv)	10
5.3	ポリシー受信履歴 (Icflog_PolicyRecvInfo.csv)	11
5.4	ユーザー定義アプリケーション情報 (Icflog_FileShellPolicyInfo.csv)	11
5.5	FileShell マシン情報 (Icflog_MachineInfo.csv)	12
5.6	FileShell 利用者情報(Icflog_FileShellUserInfo.csv)	12
5.7	FileShell ユーザーアクセスログ(Icflog_UserAccessLog.csv)	12

第1章

バックアップツールコマンドについて

1.1 機能

バックアップツール(IcfLogBackup.exe)に対し、コマンドオプションを使用して実行することにより、以下の機能を提供します。

機能名	概要	オプション使用例
バックアップ	クライアントから送信されたログをバックアップします。	IcfLogBackup /backup
復元	FileShell ログをログ収集用テーブルもしくはバックアップ閲覧用テーブルに復元します。	IcfLogBackup /restore
削除	ログ収集用テーブルもしくはバックアップ閲覧用テーブルに記録されている FileShell ログを削除します。	IcfLogBackup /delete
変換	旧バージョンのログ収集オプションにて収集したログを Ver4.1 の FileShell ログ形式に変換します。 変換したファイルは復元機能で復元します。	IcfLogBackup /convert

1.2 動作環境について

バックアップツールコマンドの動作環境については、『インストールガイド』の「動作環境について」内の「FileShell サーバー」をご参照ください。

2.1 運用上の注意事項

- * バックアップツールコマンドを利用するには、icflog データベース上の各表に対して更新権限を持ったデータベースユーザーを作成する必要があります。
データベースユーザーの作成方法については『[管理者ガイド](#)』の「[ログメンテナンス](#)」-「[データベースユーザーの作成](#)」をご参照ください。
- * 各オプションを複数同時に設定することはできません。
- * 実行したコマンドの実行結果はコマンドの戻り値(%errorlevel%)で確認できます。
戻り値は正常終了した場合は 0、異常終了した場合は 1 となります。
なお、実行結果の詳細についてはイベントログを参照してください。
イベントログについての詳細は「[第 4 章 ログ](#)」を参照してください。
- * バックアップツールは FileShell サーバーがインストールされていない環境でも利用可能です。
- * バックアップツールが出力するイベントログはバックアップツールを起動した環境に作成されます。

第3章

コマンドリファレンス

IcfLogBackup.exe にさまざまなオプションを設定して、クライアントから送信されたログのバックアップ、復元、削除、旧バージョンのログ収集オプションにて CSV ファイルで収集したログを Ver4.1 の FileShell ログ形式へと変換します。

3.1 バックアップツールの格納場所について

バックアップツール(IcfLogBackup.exe)は対応するデータベース管理システム別に、以下のフォルダーに格納されています。ご利用の環境に応じてご使用ください。

- Microsoft SQL Server (以下 SQL Server と記載します) をご利用の場合

(FileShell サーバーインストールフォルダー)¥db_util¥sqlserver¥tools¥IcfSqlServerLogBackup¥IcfLogBackup.exe

- PostgreSQL をご利用の場合

(FileShell サーバーインストールフォルダー)¥db_util¥postgresql¥tools¥IcfPostgreSqlLogBackup¥IcfLogBackup.exe

3.2 バックアップ

IcfLogBackup /backup [各パラメータ]

パラメーター一覧

パラメータ	説明	制限	既定値	要否
-U ユーザー名	バックアップするデータベースサーバーのユーザー名を指定します。	制限なし	なし	必須
-P ユーザーパスワード	バックアップするデータベースサーバーのユーザー名のパスワードを指定します。	制限なし	なし	必須
-S サーバー名(*1)	バックアップする対象のサーバー名を指定します。	制限なし	(local)	任意
-x バックアップ先フォルダー名	バックアップ先フォルダー名を指定します。	制限なし	なし	必須
-i ログのバックアップ開始日(*2)	バックアップするログの開始日を指定します。	yyyyMMdd の形式のみ有効	API 実行日付の 1 か月前	任意
-e ログのバックアップ終了日(*2)	バックアップするログの終了日を指定します。	yyyyMMdd の形式のみ有効	API 実行日付の前日	任意
-t バックアップ期間(*2)	バックアップ対象の期間を指定します。	数値のみ	1 (過去 1 か月) (*3)	任意
-c	暗号化してバックアップする場合に指定します。	文字指定不要	指定なし	任意

-p 暗号化パスワード	暗号化してバックアップする場合にパスワードを指定します。	制限なし	なし	パラメータ -c を指定している場合は必須
-a	コマンドを実行した日付のフォルダーを作成しバックアップします。(*4)	文字指定不要	指定なし	任意
-l ログ種類	ログの種類を指定します。(*5)	1～3	なし	必須
-n 組織 ID	組織 ID を指定します。	制限なし	なし	任意(*6)

*1 サーバー名はご利用のデータベース管理システムに合わせ、以下のように指定してください。

SQL Server の場合: 「サーバー名」もしくは「サーバー名¥インスタンス名」

PostgreSQL の場合: 「サーバー名:ポート番号」

*2: -i、-e と -t は併用できません。-i もしくは -e パラメータが存在する場合 -t を設定しても無効となります。

*3: 基点はコマンド実行日の前日となります。

例) 「-t 1」と指定し 2016/7/6 にコマンドを実行すると採取範囲は 2016/6/6～2016/7/5 になります。

*4: 作成するフォルダー名は yyyyMMddHHmmss 形式です。既にフォルダーが存在する場合は、上書きします。

*5: 1 = 全体ログ 2 = 組織ログ 3 = 全体ログと組織ログ

* ログの種類については『FileShell 管理者ガイド』の「ログ」の項目を参照してください。

*6: -l で 2 もしくは 3 を指定し、組織 ID を指定しなかった場合は、すべての組織のログが対象となります。

(例)以下のパラメータを指定して、バックアップを実行する場合

- ・ ログの日付:2019/4/1～2019/5/31
- ・ バックアップ先フォルダー:D:¥backup
- ・ 暗号化してバックアップ(パスワード:pass)
- ・ 全体ログをバックアップ

lcfLogBackup.exe /backup -S (local) -U user -P pass -x D:¥backup -i 20190401 -e 20190531 -c -p pass -l 1

3.3 復元

lcfLogBackup /restore [各パラメータ]

パラメーター一覧

パラメータ	説明	制限	既定値	要否
-U ユーザー名	復元するデータベースサーバーのユーザー名を指定します。	制限なし	なし	必須
-P ユーザーパスワード	復元するデータベースサーバーのユーザー名のパスワードを指定します。	制限なし	なし	必須
-S サーバー名(*1)	復元対象のサーバー名を指定します。	制限なし	(local)	任意
-m 復元元フォルダー名	復元元フォルダーを指定します。	制限なし	なし	必須
-c	データを復号して復元する場合に指定します。	文字指定不要	指定なし	任意
-p 復号化パスワード	データを復号して復元する場合にパスワードを指定します。	制限なし	なし	パラメータ -c を指定している場合は必須
-d	復元時に重複する DB レコードの ID(*2)が既に存在する場合、削除してから復元します。	文字指定不要	指定なし(*3)	任意
-b	バックアップ閲覧用テーブルに復元する場合に指定します。	0 または 1(*4)	-b 0	任意
-l ログ種類	ログの種類を指定します。(*5)	1～3	なし	必須
-n 組織 ID	組織 ID を指定します。	制限なし	なし	任意(*6)

*1: サーバー名はご利用のデータベース管理システムに合わせ、以下のように指定してください。

SQL Server の場合: 「サーバー名」もしくは「サーバー名¥インスタンス名」

PostgreSQL の場合: 「サーバー名:ポート番号」

*2: DB レコードの内容詳細につきましては、「[第 5 章 諸元](#)」を参照してください。

*3: 指定せずコマンドを実行し DB レコードの ID が重複していた場合は、復元処理を中止します。

*4: 0 = バックアップ閲覧用テーブルに復元する際に既存データを削除しません。

1 = バックアップ閲覧用テーブルに復元する際に既存データを削除します。

*5: 1 = 全体ログ 2 = 組織ログ 3 = 全体ログと組織

* ログの種類については『FileShell 管理者ガイド』の「ログ」の項目を参照してください。

*6: -l で 2 もしくは 3 を指定し、組織 ID を指定しなかった場合は、すべての組織のログが対象となります。

(例)以下のパラメータを指定して、復元を実行する場合

- ・ 復元元フォルダー: D:¥backup
- ・ データを復号して復元(パスワード: pass)
- ・ バックアップ閲覧用テーブルの既存データを削除して復元
- ・ 組織 ID「fs.local」の組織のログを復元

lcfLogBackup.exe /restore -S (local) -U user -P pass -m D:¥backup -c -p pass -b 1 -l 2 -n fs.local

3.4 削除

IcfLogBackup /delete [各パラメータ]

パラメーター一覧

パラメータ	説明	制限	既定値	要否
-U ユーザー名	ログを削除するデータベースサーバーのユーザー名を指定します。	制限なし	なし	必須
-P ユーザーパスワード	ログを削除するデータベースサーバーのユーザー名のパスワードを指定します。	制限なし	なし	必須
-S サーバー名(*1)	対象のデータベースサーバー名を指定します。	制限なし	(local)	任意
-i ログの削除開始日(*2) (*3)	削除するログの開始日を指定します。	yyyyMMdd の形式のみ有効	API 実行日付の 1 か月前	任意
-e ログの削除終了日(*2) (*3)	削除するログの終了日を指定します。	yyyyMMdd の形式のみ有効	API 実行日付の前日	任意
-t 削除期間(*3)	削除対象の期間を指定します。	数値のみ	1 (過去 1 か月)	任意
-b	バックアップ閲覧用テーブルのログを削除する場合に指定します。(*4)	文字指定不要	なし	任意
-l ログ種類	ログの種類を指定します。(*5)	1～3	なし	必須
-n 組織 ID	組織 ID を指定します。	制限なし	なし	-(*6)

*1: サーバー名はご利用のデータベース管理システムに合わせ、以下のように指定してください。

SQL Server の場合: 「サーバー名」もしくは「サーバー名¥インスタンス名」

PostgreSQL の場合: 「サーバー名:ポート番号」

*2: -i と -e は同時に指定する必要があります。どちらか一方のみで指定することはできません。

*3: -i または -e と -t を併用することはできません。-i もしくは -e パラメータが存在する場合 -t を設定しても無効となります。

バックアップ閲覧用テーブルを削除する場合、-i、-e、-t は設定できません。設定しても無効となります。

*4: バックアップ閲覧用テーブルのログを削除する場合、すべてのログを削除します。期間は指定できません。

*5: 1 = 全体ログ 2 = 組織ログ 3 = 全体ログと組織

* ログの種類については『FileShell 管理者ガイド』の「ログ」の項目を参照してください。

*6: -l で 2 もしくは 3 を指定し、組織 ID を指定しなかった場合は、すべての組織のログが対象となります。

(例)以下のパラメータを指定して、ログ収集用テーブルを削除する場合

- ・ 削除するログの日付: 2016/4/1～2016/5/31
- ・ 全体ログと組織ログを削除 (全組織が対象)

IcfLogBackup.exe /delete -S (local) -U user -P pass -i 20160401 -e 20160531 -l 3

3.5 変換

IcfLogBackup /convert [各パラメータ]

パラメーター一覧

パラメータ	説明	制限	既定値	要否
-f 変換元ファイル名	変換する CSV ファイル名を指定します。	制限なし	なし	必須
-o 変換先フォルダー名	変換したファイルを格納するフォルダー名を指定します。	制限なし	なし	必須

(例)以下のパラメータを指定して、変換を実行する場合

- ・ 変換元ファイル:D:\¥original¥Win10_20200401000000.csv
- ・ 変換先フォルダー:D:\¥backup

IcfLogBackup.exe /convert -f D:\¥original¥Win10_20200401000000.csv -o D:\¥backup

第4章

ログ

バックアップツールが記録するログについて説明します。

4.1 バックアップツールの操作ログ

バックアップツールは、バックアップに関する操作(いつ・何をした)を記録します。

記録したログは、バックアップツールを実行した PC の Windows イベントログに保管されます。

イベントログのタイトル	内容
名前	ICFLOGSV
種類	ログ
説明	カスタムエラーログ
サイズ	1028KB * サイズは、イベントビューアのプロパティで変更できます。 * ログサイズが最大値に達した時の操作は、イベントビューアのプロパティで設定できます。 * ご使用の環境で、過去のログが上書きされる場合、この値を大きめに設定してください。

4.2 バックアップツールの操作ログ内容

バックアップツールでは、以下の操作をおこなった時にログを出力します。

操作	アクション	アクション固有情報
データをバックアップする	バックアップ	サーバー名 ログの日付 バックアップ先フォルダー名 暗号化の有無
データを復元する	復元	サーバー名 復元元フォルダー名 復号の有無
データを削除する	削除	サーバー名 ログの日付
データを変換する	変換	変換する CSV ファイル名 変換先フォルダー名

4.3 バックアップツールの操作ログ一覧

バックアップツールが出力するイベントログの一覧を記載します。

イベント ID	レベル	メッセージ
1001	情報	データのバックアップを開始します。 サーバー:サーバー名 ログの日付:yyyy/MM/dd～yyyy/MM/dd バックアップ先フォルダー名:フォルダー名 暗号化:on または off
1002	情報	データのバックアップに成功しました。 サーバー:サーバー名 バックアップ先フォルダー名:フォルダー名 ログの日付:yyyy/MM/dd～yyyy/MM/dd 暗号化:on または off
1003	情報	データの復元を開始します。 サーバー:サーバー名 復元元フォルダー名:フォルダー名 復号:on または off
1004	情報	データの復元に成功しました。 サーバー:サーバー名 復元元フォルダー名:フォルダー名 復号:on または off
1005	情報	データの削除を開始します。 サーバー:サーバー名 ログの日付:yyyy/MM/dd～yyyy/MM/dd
1006	情報	ログの削除に成功しました。 サーバー:サーバー名 ログの日付:yyyy/MM/dd～yyyy/MM/dd
1007	情報	CSV ファイルを V3.0 フォーマットへの変換を開始します。 変換する CSV ファイル名:対象 CSV ファイル 変換先フォルダー名:変換後保存フォルダーパス
1008	情報	CSV ファイルを V3.0 フォーマットへの変換に成功しました。 変換する CSV ファイル名:対象 CSV ファイル 変換先フォルダー名:変換後保存フォルダーパス
2001	エラー	データのバックアップ中にエラーが発生しました。 処理をロールバックします。 サーバー:サーバー名 ログの日付:yyyy/MM/dd～yyyy/MM/dd (詳細) ….(処理したテーブル情報)
2002	エラー	データの復元中にエラーが発生しました。 処理をロールバックします。 サーバー:サーバー名 復元元フォルダー名:フォルダー名 (詳細) ….(処理したテーブル情報)
2003	エラー	データの削除中にエラーが発生しました。 処理をロールバックします。 サーバー:サーバー名 ログの日付:yyyy/MM/dd～yyyy/MM/dd (詳細) ….(処理したテーブル情報)
2004	エラー	CSV ファイルを V3.0 フォーマットへの変換中にエラーが発生しました。 変換する CSV ファイル名:対象 CSV ファイル 変換先フォルダー名:変換後保存フォルダーパス

第5章

諸元

バックアップコマンド(IcfLogBackup /backup)で出力したログバックアップデータの諸元を記載します。

5.1 FileShell 操作ログ(Icflog_OperationLog.csv)

項目	出力内容	データ型
OperationLogID	操作ログ ID	文字列
TenantName	組織 ID	文字列
TimeGenerated	操作ログ生成日時	文字列
RecordNumber	レコード番号	数値
EventType	ログ種別	数値
EventID	イベントID	数値
UserName	ユーザー名	文字列
ComputerName	コンピューター名	文字列
Description	操作ログ説明	文字列
DescriptionSize	操作ログ説明サイズ	数値

CSV 出力例

```
"c4b4a46e-3bab-4a64-aaa8-2aae9847f79b","", "2021/08/31 23:59:00",  
"743","4","8001","N/A","ws2016std.aaaa.local",  
"ログインしました。サーバーのコンピューター名: WS2016STD 利用者のコンピューター名: fs-w10-nnnnn.aaaa.l  
ocal 利用者の Windows ユーザー名: aaaa¥Administrator ログインした管理者名: aaaaadmin ", "185"
```

5.2 FileShell イベントログ(Icflog_EventLog.csv)

項目	出力内容	データ型
EventLogID	イベントログの ID(DB レコードの ID)	文字列
TimeGenerated	イベントログ生成の日時	文字列
RecordNumber	レコード番号	数値
EventType	イベントの種別	数値
EventSource	イベントソース	文字列
EventCategory	イベントカテゴリ	数値
EventID	イベント ID	数値
UserName	ユーザー名	文字列
ComputerName	コンピューター名	文字列
Description	イベントログ説明	文字列
TenantName	組織 ID	文字列

CSV 出力例

```
"87bac783-40b2-4130-848a-36c9b6733ce6"," 2021/08/31 23:59:00",  
"4579","2","FileShell Client","1","171","AAAA¥icfuser001","fs-w10-nnnnn.aaaa.local",  
"ポリシー更新に失敗しました。 19 UserId.Administrator@aaaa.local"
```

5.3 ポリシー受信履歴 (Icflog_PolicyRecvInfo.csv)

項目	出力内容	データ型
PolicyRecvInfoID	ポリシー受信履歴の ID(DB レコードの ID)	文字列
EmailAddress	ポリシー受信したユーザーのユーザーID	文字列
DisplayName	ユーザー名	文字列
OUPath	OU パス	文字列
BasePolicyName	ID 配布組織の場合: 共通ポリシー名 簡易配布組織の場合: FileShell ベースポリシー名	文字列
NodePolicyName	ID 配布組織の場合: SG ポリシー名 簡易配布組織の場合: FileShell 個別ポリシー名	文字列
RecvDatetime	ポリシー受信日時	文字列
BasePolicyUpdateDatetime	ID 配布組織の場合: 共通ポリシーの更新日時 簡易配布組織の場合: FileShell ベースポリシーの更新日時	文字列
NodePolicyUpdateDatetime	ID 配布組織の場合: SG ポリシーの更新日時 簡易配布組織の場合: FileShell 個別ポリシーの更新日時	文字列
ServerName	FileShell サーバー名	文字列
Result	受信結果	数値
TenantName	組織 ID	文字列

CSV 出力例

```
"d6aeefc1-9f32-4583-8a1f-826995956cb2","icfuser001@aaaa.com","icfuser001",
"aaaa.com/FSGroup","DefaultPolicy","sg_10_01","2021/08/31 23:59:00",
"2021/08/30 12:00:00","2021/08/30 12:00:00","WIN-1RLGA5IECNE","0"
```

5.4 ユーザー定義アプリケーション情報 (Icflog_FileShellPolicyInfo.csv)

項目	出力内容	データ型
PolicyInfoID	ユーザー定義アプリケーション情報の ID(DB レコードの ID)	文字列
RegisterDatetime	ユーザー定義アプリケーション情報を収集した日時	文字列
FileShellUserID	FileShell ユーザーID	文字列
Type	種類	数値
Name	名前	文字列
Data	データ	文字列
RevisionID	リビジョン ID	文字列
TenantName	組織 ID	文字列

CSV 出力例

```
"7775ad20-06ed-43ba-b56f-980d4e07e5ac","2021/08/31 23:59:00",
"icfuser001@aaaa.com","2",
"C:¥Program Files (x86)¥Windows NT¥Accessories¥wordpad.exe","111",
"{7BCDE8C9-019E-4770-9F7C-AB816B93729E}"
```

5.5 FileShell マシン情報 (Icflog_MachineInfo.csv)

項目	出力内容	データ型
MachineInfoID	マシン情報の ID(DB レコードの ID)	文字列
RegisterDatetime	FileShell マシン情報を収集した日時	文字列
ComputerName	コンピューター名	文字列
OsVersion	OS バージョン	文字列
IPv4Address	IPv4 アドレス	文字列
IPv6Address	IPv6 アドレス	文字列
FileShellClientVersion	FileShell クライアントバージョン	文字列
TenantName	組織 ID	文字列

CSV 出力例

```
"d3f77794-408a-4736-8a21-ec47ab601ea0","2021/08/31 23:59:00",
"fs-w10-nnnnnn.aaaa.local","0.6.1","192.168.10.21","0000:0abc:1234:5678:90ab:cdef:0000:0000","6.1.0.0"
```

5.6 FileShell 利用者情報(Icflog_FileShellUserInfo.csv)

項目	出力内容	データ型
UserInfoID	利用者情報の ID(DB レコードの ID)	文字列
RegisterDatetime	FileShell 利用者情報を収集した日時	文字列
FileShellUserID	FileShell ユーザーID	文字列
WindowsUserName	Windows ユーザー名	文字列
ComputerName	コンピューター名	文字列
TenantName	組織 ID	文字列

CSV 出力例

```
"3bf628ed-9cbd-423e-97f6-2992c0a53292","2021/08/31 23:59:00",
"icfuser001@aaaa.com","AAAA.COM¥nnnnnnnnnnnnnnnn","fs-w10-nnnnnn.aaaa.local"
```

5.7 FileShell ユーザーアクセスログ(Icflog_UserAccessLog.csv)

項目	出力内容	データ型
UserAccessLogID	アクセスログ ID(DB レコードの ID)	文字列
TenantName	組織 ID	文字列
AccessDatetime	FileShell クライアントからのユーザー認証時のアクセス時刻	文字列
AuthenticationResult	ユーザー認証結果	数値
FileShellUserID	FileShell ユーザーID	文字列
AccessUserSID	FileShell ユーザーの SID	文字列
IPAddress	FileShell クライアントの IP アドレス	文字列

CSV 出力例

```
"3ca628bb-8add-718e-67f9-2112c0c59782","TENANT1","2021/08/31
23:59:00","0","icfuser001@aaaa.com","S-1-2-34-567890123-4567890123-4567890123-4567","192.168.10.21
"
```


InfoCage FileShell バックアップツールコマンド
利用ガイド Version 6.3

NEC ソリューションイノベータ株式会社
東京都江東区新木場一丁目 18 番 7 号
TEL(03)5534-2222 (代)

Copyright© NEC Solution Innovators, Ltd. 2021-2023.

NEC ソリューションイノベータ株式会社の許可なく複製・改変等を行うことはできません。